

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱第7条第4項の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度高松市若者支援協議会代表者・実務者全体会議
開催日時	令和4年9月28日（水）午前10時～午前11時
開催場所	高松市役所 13階大会議室（高松市番町一丁目8番15号）
議 事	(1) 本市のひきこもり支援について (2) 高松市若者支援協議会の委員構成について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	山岸委員、吉田委員、井上委員、溝淵委員、安西委員、合田委員、辻委員、井上委員、中野委員、折日委員、坂田委員、多田委員、河野委員、大村委員、黒田委員、中島委員、高尾委員、里石委員、岩田委員、藤澤委員、綾委員、木内委員、宇野委員、小林委員、藤田委員、坂賀委員、植松委員、金本委員、遠山委員、宮本委員、鷺見委員、松本委員、槇塚委員、松尾委員
傍 聴 者	1 人 (定員 10 人)
担当課及び 連絡先	健康福祉総務課地域共生社会推進室 839-2372

審議経過及び審議結果

1 開会

2 議事

(1) 本市のひきこもり支援について

事務局と健康づくり推進課より、本市のひきこもり支援について説明を行い、情報共有を図った。

委 員) 高松市若者支援サポートブックの配布部数、配布先を教えてください。

事務局) 関係機関や小学校、中学校、高校、大学、スーパーやコンビニ等へ設置し、令和3年1月時点で、計2万2千部配布している。

委 員) ひきこもりに対しての社会的理解が、非常に広く深くなったという背景もあり、身近な人に我が家の悩み、子どもの状況について相談しやすくなっている。心配していた方をまるごと福祉相談員へつなぎ、連携して対応することで危機的状況を乗り越えられたことも直近であった。

事務局) 全国的にもひきこもりへの社会的理解が深まり、自治体による実態調査も行われており、市民への理解を深めているところである。

委員) 学校では、対象児に対して生存確認を行ったり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへつないだり、一緒に家庭訪問を行うなどしている。中学校卒業後に進学先が見つからない場合や就職しない場合、支援が途切れてしまう可能性があり、家族や本人が支援を希望しない場合でも支援が成り立つのか教えていただきたい。

健康づくり推進課) 情報提供をいただく場合、本人の同意がなくても家族の同意があると支援関係を円滑に進めていくに当たって、有り難い。かかわり事体を拒否される御家庭にどのようにかかわっていくかは、ケースバイケースで検討しながら進めていきたい。

事務局) 高松型地域共生社会構築事業については、直接支援につながらなくても、まるごと福祉相談員や、地域の民生委員等で緩やかな見守りに注力している。そのため、学校卒業後にどうすればよいか検討が必要な生徒がいた場合、健康づくり推進課やまるごと福祉相談員、地域共生社会推進室へ情報提供していただくと、緩やかな見守りという視点で、相談対応していく。国の仕組みとしても、「申請主義」から「伴走型支援」というような継続的な支援に取り組むこととされており、本市でもこのような支援に力を入れていく。

(2) 高松市若者支援協議会の委員構成について

事務局より、次年度の若者支援協議会の委員構成の変更について説明を行った。

委員) 基本的に外部委員を中心とした会議、委員構成ということでよろしいか。

事務局) 基本的には外部委員を中心として、行政機関については関係課を招集する等、顔の見える関係づくりに努めたい。

全体を通しての意見

委員) 各委員に対して意向調査をしており、調査結果はいただいているが、運営方針について反映したことがあれば紹介してほしい。

事務局) 令和2年度の書面会議の際に、御意見をいただきその結果を報告している。反映したところは、ひきこもりを中心とした議論をしてはどうかという御意見を踏まえて、今回のテーマとして取り上げた。年齢構成については、多くの御意見をいただいております。おおむね15歳から40歳未満ではあるが、8050問題もあるように50代でひきこもりとなったり、雇用の分野では就職氷河期世代を含む50歳未満までを対象としたり、若者の範囲が広がってきていると感じており、様々な御意見も適宜踏まえていきたい。

委員) 学校を卒業した子どもや、大人、若者たちに、いかにサービスを提供するかということに焦点を当てて、進めていくのが重要ではないかと感じた。最後に、この会議で進めてほしいのは、ケースの事例検討である。今日の話では 50 代の方 1 名と、20 代の大学生の方 1 名の例が出てきて、個人情報等で難しいと思うが、事例を検証し、その結果を今後の支援へ生かすことが重要。小・中・高等学校においては、ひきこもりに関して対応方針を持っているため、連携しつつ、長年現場でかかわっている方の情報もいただきながら、具体的に考えていく時期に来たと感じた。